

プリント手拭い製作依頼の手引き

【1】 ver050630

～ 目次 ～

【概要】

本手引きの取扱い上の注意について

【1】 デザイン作成上の注意

- (1) 点の大きさの限界 → 1 mm以上の大きさが必要です
- (2) 線の細さの限界 → 1 mm以上の太さが必要です
- (3) 周囲余白の問題 → 原則的に周囲余白が約 10 mm以上必要
- (4) デザインサイズの問題
→ 生地の種類と用途により巾と長さが異なります

【2】 プリント手拭いの問題点

- (1) 色の一致について → 目標色と正確には一致させられません
- (2) 変退色について → 多少の変退色があります
- (3) においについて → 多少の溶剤臭がします
- (4) デメリット表示について → 原則付けません
- (5) 生地難の問題 → 多少の糸節や織段があります
- (6) 無地（ベタ）部分のムラについて → 無地部分はムラになりやすい

【概要】

プリント手拭いは、手拭い専用の、オートスクリーンマシーンにより製作されます。

多くは、蒸し洗いを必要としない、プリント後に乾燥とベーキングのみで仕上げが済んでしまう「顔料プリント」でなされます。

その用途の多くが、販売促進用ですので、すぐ出来て安価な手拭いとしては、最も適した製作方法として重宝されております。

スクリーンプリントの為、注染よりは細かい線が表現できますがそれでも限界はあります。また注染のように両面を染めることは出来ず、こっくりした味わい深い色を出したりすることは苦手です。

そして、手触りが顔料独自のザラザラ感があったり、気にしてみると顔料特有の匂いがあったりもします。

注染では不可能なデザインを手拭いにしたり、予算的な問題で安いプリント手拭いを作られる方は、是非、この手引きでご説明させて頂く様々なプリント手拭いの特性をご理解頂いた上で、製作依頼をして頂けますようお願い申し上げます。

製作依頼に関して指定しなければならない各種仕様に関しては、「手拭い見積依頼フォーム（仕様の説明）」の中で述べさせて頂きましたが、ここでは、製作の際の思わぬ問題点などに関して説明させて頂きますので、併せてお読み頂ければ幸いです。

※本手引き取扱い上の注意について

- (1) 本手引き記載内容の全ての著作権は東京和晒株式会社にあります。
- (2) 許可無く、複製、改変、引用などを禁じます。万一それらしき行為又は表現を発見した時には、法的措置を講じさせていただきます。
- (3) 本手引き記載の内容に基づき、判断または行動をした場合に起きたいかなる損害に対しても当社はその責を追いません。
- (4) 本手引きは当社に製作を依頼されるお客様の参考にして頂くことを目的に作成したものであり、他社の基準とは異なる点多々あります。

なお、当社にご発注頂いたお客様以外には、一切内容に関する説明などはさせて頂きませんことをあらかじめご了承下さい。

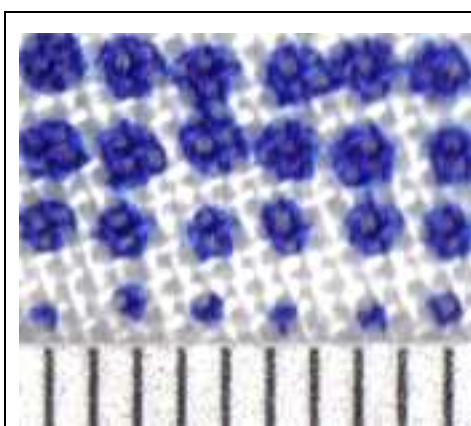
【1】デザイン作成上の注意

(1) 点の大きさの限界

→ 1 mm以上の大きさが必要です

紙への印刷と異なり、布の場合、糸のない部分は「穴が開いた状態」になっておりますので、自ずと大きさの限界があります。また、あまり点が小さすぎると、スクリーンのメッシュを顔料が通過できずにかすれてしまうことがあります。

現実的には色付きの点も白点も 1 mm以上の大きさの点しか綺麗に表現できません。



布にプリントした点の拡大写真

1 mmよりも小さな点は布目（糸と糸の間隙の穴）の影響で不安定になります。

また、点同士が隣接しすぎると、くっついてしまう事もあります。

（下のスケールは 1 目盛り 1 mm です）

(2) 線の細さの限界 す

→ 1 mm以上の太さが必要です

点の場合と同様、線の細さにも限界があります。

現実的には色付きの線でも、白線でも 1 mm以上の太さしか綺麗に表現できません。細い線も太くなってしまいイメージが崩れる場合があるので注意が必要です。

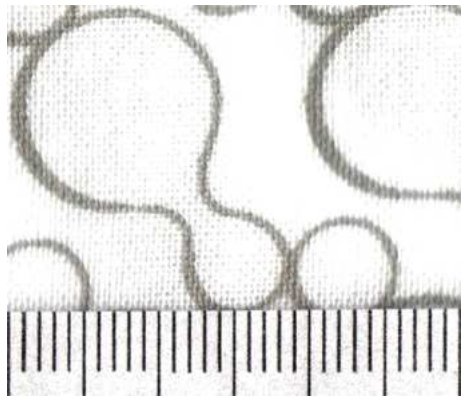
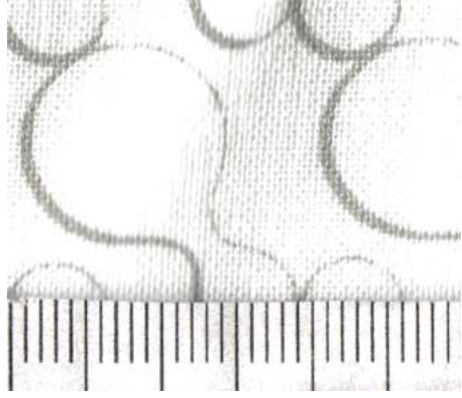


白線と白点の限界

白線、白点の場合は色付きの線や点に比べて膨らむ傾向にあります。

結果的に 1 mm以下の線や点は不安定になります。

（下のスケールは 1 目盛り 1 mm です）

	<p><u>色付き線の限界</u></p> <p>瓢箪型のデザインの片側を1mm以下にして、立体感を出したいデザインでしたが、安全を優先すると、最低約1mmの太さとなり、メリハリが無くなり立体感が表現できませんでした。</p>
	<p>そこで、「多少かすれても良い」という条件つきで、再加工にチャレンジしました。</p> <p>結果的には、約2割程度、予想通り線がかすれたり切れたりしましたが、お客様には「立体感が出て良かった」と満足して頂けました。</p>

(3) 周囲余白の問題

→原則的に周囲余白が約10mm以上必要

スクリーンプリント手拭いは「白生地を手拭いの長さ（約90cm～100cm）に切ってからプリントします。そこで生地に乗せる柄が生地より大きいと生地を置く台から、顔料がはみ出してしまい、他の生地を汚してしまうので、原則的に生地の周囲には約10mm以上の余白（白フチ）を必要とします。

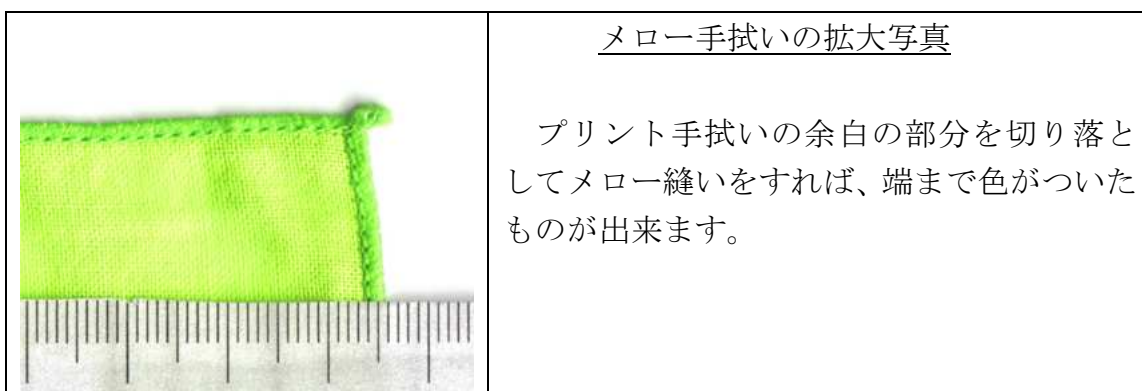
また余白の大きさは生地の置き方で、数mmずれますので予めご了承下さい。

	<p><u>周囲の余白</u></p> <p>周囲の余白は、正確に何mmとは言えません。切った布の置く位置で、数mmは間違いなくずれてしまいます。</p> <p>この写真では左余白が約7mm、上部の余白は約10mmとなっております。</p>
	<p>同じ手拭いの反対側です。</p> <p>こちらは左余白が約14mm上部余白も約14mmあります。</p>

どうしても余白無しで作りたい時は、任意の1色だけなら、対応させて頂く事が可能ですが、その場合コストがアップしてしまいます。詳しくは参考価格表をご覧ください。

また、余白の部分を切り落としてメロー縫いなどで縫製する場合もございます。

(メロー縫いの糸は高温に弱い糸なのでアイロン掛けの際は中温から低温でお願いします。高温だと糸が溶ける場合があります。)



(4) デザインサイズの問題 →生地の種類と用途により巾と長さが異なります

一口に「手拭い」と言っても様々なサイズがあります。

長手方向を「長さ」そうでない方向を「巾」とします。「巾」は生地の種類によって異なります。また実際のサイズは±1cmくらいは誤差がありますのでご注意ください。

【良く使われる生地の巾とその用途】

生地名称	巾	用途および特徴
総理（ソーリ）	約33cm	手拭い用、通気性は良いが耐久性に欠ける
岡（オカ）	約34cm	手拭い用、総理より表面が滑らか
特岡（トクオカ）	約36cm	手拭い・シャツ・浴衣用、耐久性有り
巾広特岡（ハバヒロ）	約38cm	シャツ・浴衣用
キング特岡	約40cm	シャツ・浴衣用

※素材は全て綿100%です。総理は20番手という太めの糸を使用し岡、特岡は30番手という太さの糸を使用しています。

【手拭いの長さとの用途】

長さ	用途
約85cm以下	販促品など低価格のもの
約90cm	一般的なサイズ（ただしハチマキ等被り物に使うのには少し短い）
約100cm	剣道や、お祭りで使うハチマキなどの被り物にはこの長さが必要
約110cm	踊りなどの特殊な用途の場合

【2】プリント手拭いの問題点

(1) 色の一致について →目標色と正確には一致させられません

注染に比較すると、DIC番号や紙や布の色見本などの目標色へ近づけやすいのもプリント手拭いの特徴です。それでも、紙への印刷と比較すると遥かに目標色より外れて上がります。

また顔料プリントの場合は、「濃くてはっきりした色」が、概ね、染料プリントや注染に比べて難しい傾向にあります。

色合わせを慎重に行ないたい方は、費用と時間が掛かりますが見本染めをして頂く事をお奨めします。

(1) 変退色について →多少の変退色があります

顔料プリント手拭いでも変退色します。特に、白生地部分は経時変化で黄ばんで行きます。黄ばみ対策には、家庭用洗剤（普通は蛍光増白剤が入っている）で洗濯すればかなりの効果があります。

ただし洗濯することによって、顔料が、薄くなる傾向にあります。また、強く摩擦する事により顔料部分が落ちる事もありますので注意が必要です。

(2) においについて →多少の溶剤臭がします

顔料プリントでは有機溶剤で顔料インクの濃度を調整しているので、プリント後の乾燥とベーキングを経ても多少溶剤の匂いが残っている事があります。空気中にしばらく放置すれば消えて行きますが気になる場合は一度水洗いして乾燥して下さい。洗濯に際してはドライクリーニングは厳禁ですのでご注意下さい。

(4) デメリット表示について →原則付けません

顔料プリント手拭いに関しましては、注染手拭いのようにデメリット表示のシールは付けておりません。大きな理由は廉価版の為少しでもコストダウンしたいとの事からであるのと、注染ほどのクレームはあまり無い為です。ただしご希望により、注染手拭いと同じシールを張らせて頂く事も可能ですので、その際にご相談下さい。

(5) 生地難の問題

→多少の糸節や織段があります

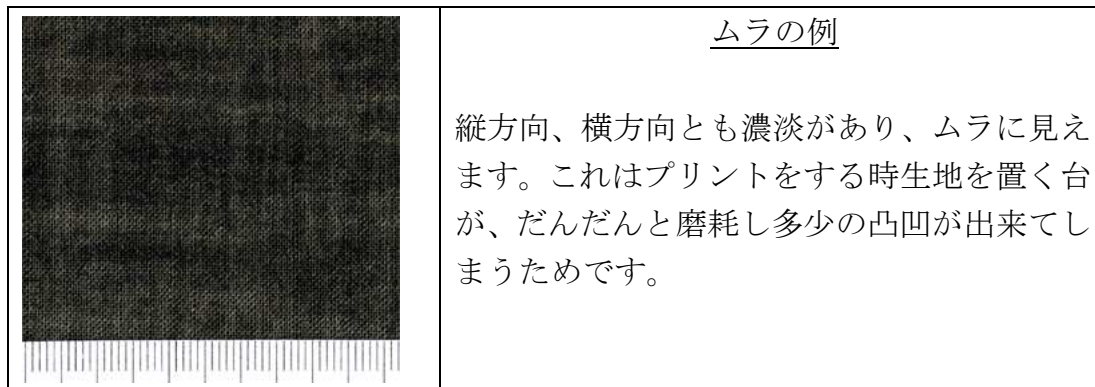
手拭いに使われる、総理や特岡は、20番手や30番手という比較的太い綿糸が使用され、紡績の過程で「コーマ」という「櫛で糸の太さを揃えるという工程」を経ていませんので、糸節(いとふし)があつたり、また緯糸(よこいと)を継ぎ足す工程で2重になったり隙間が開いたりする織段(おりだん)が稀にありますし、当社でその生地難に関する責任は保障できるものではありません。(しかし、発生率があまりにも多い場合はご相談下さい)

この問題への対応策として、上総理や上銘特岡というワンランク上の生地を使えばかなり生地難(不良品)の発生率は少なくなりますが無くなる訳ではありません。

用途とコストに応じて、生地をお選び下さい。

(6) 無地(ベタ)部分のムラについて →無地部分はムラになりやすい

プリント手拭いの場合、広い面積の無地(ベタ)部分が多少なりともムラになります。これは、顔料をスキージする(布にこすりつける)時に、布を置く台がほんの少しですが凸凹していて、それが微妙な濃淡になって出てしまうのです。



この状態の布の表情が気に入って下さればそれで良いのですが、ムラが気になる方には以下の対策が必要です。

- 1) 無地の面積を少なくし柄を多く入れ、ムラを目立たなくする。
- 2) 無地の部分は、別に無地染め(反応染料など)で対応し柄だけプリントする。